

## 令和元年度大阪府債下半期発行計画の変更に対する考え方について

### <変更案のポイント>

○ 5年債を計300億円減額し、10年債に振替え(12月・2月の発行を300億円に設定)。

### 【9月債・10月債の10年債の発行実績について】

発行月	9月	10月
発行実績 (発行額/応募者利回り/応募倍率)	200億円/0.001%/6.08倍	100億円/0.001%/9.40倍
仮に発行額を300億円とした場合 (発行額/応募者利回り/応募倍率)	300億円/0.001%/4.05倍	300億円/0.001%/3.13倍

⇒ 大幅に発行条件が悪化するリスクは限定的か。

### 【変更案のポートフォリオ】

平均調達期間	9.23年 [8.56年]	[ ]内は、当初計画策定時の数値
平均発行年限	10.37年 [9.25年]	

### <現行計画のポイント>

○ 計画変更はシンジケート団の販売戦略に影響を与えるおそれがあるため、現行の計画を維持。

### 【現行のポートフォリオ】

平均調達期間	9.01年 [8.56年]	[ ]内は、当初計画策定時の数値
平均発行年限	10.15年 [9.25年]	

### <シ団からの意見>

- 10年債と5年債が同条件になっているので、できるだけ長く低利で借りられるという状況の中で10年債を増やすのは理にかなっている。
- 今回は環境が変わったということであれば変更は行うべき。事前に投資家に示すことができるタイミングであるため、投資家にとっても違和感はないと考える。
- 実務上、予約を募るという観点においても、これだけの期間があれば対応可能。